利益とパーパスの追求の両立：澁谷食品株式会社の事例研究

1250512　牧野 純大

指導教員　土屋 哲

研究背景

近年、企業は社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。これを実施する方法の概念として、パーパス経営が存在する。パーパス経営の実施によって、自社の存在意義を社会やステークホルダーに示すと共に、それらの存在に貢献することが出来る。しかし、このパーパス経営の実施方法は明らかとなっていない。特に、パーパスの追求と利益の追求の両立に関する知見は蓄積されていない。

研究目的

本研究では、事例研究を通じて、パーパス経営の実施における、「パーパスの追求と利益の追求の両立」について検討し、その方法に関して仮説を導出することを目的とする。

研究方法

さつま芋菓子のリーディングカンパニーであると共に、パーパス経営を行っているシブヤグループを対象として、事例研究を実施した。そして、同社の従業員と経営者に対するインタビューや、同社の工場や設備への見学の記録としての一次資料と、社史やホームページ等の二次資料をデータとして収集して総合的に用いた。

分析結果

2 代目である現社長は、先代から引き継いだ遺産を生かして、さつま芋菓子のリーディングカンパニーとして利益の追求をしている。利益の追求としては、(1)工程のイノベーション、(2)商品の品質向上、(3)自社ブランドの確立と販売チャネルの創造の 3 つが主に行われていた。また、パーパスの追求としては、地域や農家などに、子ども食堂や契約農家などの取り組みで貢献をしていた。

考察・結論

事例研究から、「創業者の遺産を引き継ぎ、それを活用したこと」と「自社の事業領域内でパーパスの追求を行ったこと」の、両立の方法に関する二つの仮説を導出することが出来た。創業者の遺産を生かすことで、自社の従業員に自然とパーパスを浸透させることができ、あらゆる利益の追求に関する意思決定や行動に対して、反映することができていると考察した。また、自社の事業領域内でパーパスの追求を行ったことで、パーパスの追求を自社の利益の追求におけるプロセスに組み込むことが出来ていると考察した。